をよ

<

聞くことがあ

る

と思

いう

コ

ステ

口

素。

胞

や

モ

る 切

た

め 栄

必要

な 木

しで

は ンを

人

きて

ħ

りません。

ただ、

必

要 間 作

なコ は生

テ

口 け

はごく

少

一量でよ

で ス う。

コ

ステ

口

は

大

な ま か

養

す 相 特

ぜ

悪

王 \supset

なの レステ

か

を

考えてみ ルとは

l

談

員

を

1

る

重

松

と

申

l

制

限の

つ

7

1

る

事

な ま

らに思

1 多

→六歳になる長女似にしたいもので

c 2

での

して人

ょな

別

養護老

ホ

瑞

雲

で

生

が

利用

L

口

何

きつき訪問 2 看護 ব コステー 6 ション

 \bigcirc

取 2

り が

す コ

ぎで

す

D ル

0

1

ンステ

口

2

つ

9

な

5

な

編

集 85

ž

L

き を ま

ま

ケ

口

を下

る

に

は

類 テ 品 う

モ

Ŋ

夕 げ

< 口

な 含

ことで

有量の

多

食品

すい

B

慣 欲 で も いの て花 気 増 をつ П いる が してくる \emptyset けてお \bigcirc り 看 をみかけまし 庭 7 季節 きた には う で 綺 to 麗 コ で たな は あ 食 り ス 花 ま 食が

ν ステロ ☆悪玉のワケ☆ を取り上げます

基本方針 ある施設にします 平等な援助に努めます 指します ・社会で通用する接遇を修得し、利用者に明るく気持ちの

杵築市 ひまわり

http://www.wel-himawari.net

員

紹

新

人

介

瑞雲荘看護師

麻

生

み

な

み

ひ

まわりホー

ム

^

ル

パ |

ステ

シ

阿

部

勇

7

兀

月

六

日

ŋ

き

0

き

 \mathcal{O}

ス

社会福祉法人ひまわり理念

利用者の尊厳を守り、敬愛の精神で接すること地域福祉の拠点となり、開かれた施設として地域に貢献

利用者のあるがままの姿を受入れ、見守り、優しく安らぎの 利用者の意思を尊重し、利用者の立場で考え、安全で

・地域の関係機関と連携し、地域福祉の推進と向上を目

良い態度で接します ・日々向上心を持って、専門機能の研鑽に努めます

設ホ 特別 ス

プ

IJ

ン

ク

ラ

設

I

養護老

人

木

厶

瑞

荘

よ始の 入めな 三ム月 生り活安 まり 置 入 れ 工 二 十 事 瑞 全で 替えとト 環 ま 予及び老朽な霊荘にて で境 U 三日 た。 すの快 適 てス より 化 V \emptyset l プ 特 別 IJ 養護老 ン クラ



所の

事

者 工

 \bigcirc

皆

様

改修工 事 設 が備 を今福 日

よろ かけ家 は五 月 族 しくお願 l てお皆 末に 終 り様 わ には 1 ま る予定で が 1 たしま ど 変 で迷 理解 す の惑 工ほ を 事 سلح お

祉 本 車 両 配 団

後祉事財 第 ___ いっそう御利の一輌が仲間に加え 4 様 考 から え に加助の助 通 わ成 用 金で新 者 り 様 ま \bigcirc L 安た た 遵 全 な

新 人 職 紹 介

きつき訪問看護ステー ショ ン

月

現在です。 から 今宮喜 L た V 今 宮 ま 美 代 喜わ 美

ま れ いの 合 う 勤 仕 務 え る 事 لح を لح 通 L を ま 楽 7 す L 沢 が み山 にの訪 ろ 方 問 L て々看に おと護

社会福祉法人 ひまわり 広報部発行

0978-52-2233

と派直手キアま

流

لح を

寸

止

い担

を

る

縄 \otimes

日 全

の珍

Þ 7

頭

中

グ

る

のな

がな

لح ま

言う

り

見 事

る に

ŧ

0

感

で

流く空

لح た

空

手 生

S

り

レヽ ノヾ

麻

。み

な

す 12

技

わで荘ンデ

配

属

に

はピり雲セ里

在 部

は 勇

 $\stackrel{-}{-}$

種 で 職 6

許

と

現 冏

の免

り 兀

太入か

た ま

ではな瑞

5 ピ

ボ

ド

し

7

ま ン

す

てば課

2

ま

だ、目

ての

資

格

取

得

を

仕指パ

L

て

なが二

のれん級

触

 \sim

ル

が所

ん者

方 を 帯 5 柔

Z

0

お

立

T

いろ

まあほ

る W

私

で 少

す

が

お

 \mathcal{O}

忍

活

日

で

7 合

空 す う 当 ま 4

手

で

日 しに ま頑 に で 張 地 ŧ 域 早 \mathcal{O} < ま す 方 \mathcal{O} 達 \mathcal{O} L で に 仕 ょ 貢 事 ろ に 慣 で を < き れ モ る お よッ明

などコ ただ をな \mathbf{L} \bigcirc レ卵 うに コな L コ 多質 E ステ ス \mathcal{V} る Vで 1/ 1 スそ で ベテ肉 蚊帳の れまし したが 世 位 反応を示 わ けで と言 界に の事 す つ る そ 外 す 入 が 施 であることが あ な 介 つ 5 が 護 7 7 Ì 介 2 ては 方で入 5 サ 護保 早 しま t た か と \bigcirc $\overline{\mathbf{V}}$ 利 1 ビスは 用 険 ます 者 が 年 言 け と 所 も 導 本 な 者 \bigcirc あ 利用 歳月 をお るで まに て、 が 福 わ 返

0

 \blacksquare

さて、

暦

ま

ま

したら

がご了

経験で

す

0

て

何

ろ

す

い点等があ

要で、 きてい テ う 力 生活相談員 口 口 で 食 な を巡らせ反 ど魚 す し ル ~" ません。 ょう。 は を大量 検 介 $\langle \rangle$ 間査の値 台記 類に 省 に 体を 含 祖 してみることも は悪動化 先 食 ま 0 ~" ħ 看 る 物 る 食 さ 護 コレ 生 ょ 性 せ

まに 受入 らで H を た 普段施設で起この 通して た。 入所 は 事 家に ħ し を た が 家 者 綴 可 帰 \emptyset \bigcirc 2 能 家 っ様 方 7 か確 族 7 子 か み 事、 \bigcirc みがら た 認 方 た気外 1 に 考 を いに と させ 連絡 えさ と な 希 思 のる 望 7 せ を 想 が 1 < しいた ら

送

7

け

りで

す 思

胸を

b

ま

せ L

ンない

毎

日

始

まる

新

き

ま

した

入学を迎え

の意

た

 $\langle \rangle$ 2

かし

7

感じ

今

日こ

を

ま

高尾

ま

2 ろ、 る さ 可 \emptyset に と話 も 自 他 6 分 を わ や \bigcirc L 子家た

ります

のた

 \Diamond

う名前

が

つ

中 す

コ \subset

口 が多

は

Ш.

管 2

 \emptyset

7

分

と

う 説

も

あ

臓で

も

作ら

れて

 \emptyset

粒子

すぎる

液 ま

か

ま \bigcirc

心 $\langle \rangle$

や

卒

 \emptyset

と l 壁 血 り そ \bigcirc \mathcal{V}

 Ω

き 起

۲

ま

的になって、 きて きた ます 決定能力等 た 1 「どのように が も l 制 な ため 度なん ように 5 まうこの ヹ また、 若 1 か \bigcirc 想 しく (送 よう 利用 0 9 だと今更 1 1 : 多く 如 利 矛 2 1 入され に対 7 何に 用者 できな な生 9 け き \sqsubseteq も 1 と過 : 万 活 な が は っな さ 5 ょ 0 管 を 自 者 祉 預 な _ を ()本 理 守 が 番 ま の剰 ħ NV 1 分 本 流 が か す無い 肌 がま 上で たことを話す んで風邪をひ ることがで お読み苦し 着のままビー油断して風口 そうに今日学校であ 小 かと思います くおります。いまだまだ寒いくは春になり ルに待 ・学校の なんて ただけ 様に か

風呂上

ル しま

つ

つ日

をりいがし唇らき

応 る 所 され え 方 0 る Š 家

 \bigcirc る

頃で

き

で

あ

()

編集 社 福 祉法 人ひ 高尾 毅

点点 本財 ま し 検 マ を行 4 ナ 様どうも って守 いきます。 あ Ŋ が 運 とうござ 転 • 車

H 輌 守



と歓声

記念撮影、

2

7

まし

た

を背

代材の

お

記

その

後お しく

楽

ゆ

なひ りに 木 桜並 した。 日出

木を前に「わぁ

きれ 満開

1 に

やなぁ

この天候に恵まる田町の黒岩公園

ħ \wedge

咲き誇

つ

お花見に行

2

てきま

茶で

まうの

ですが

緑も

楽しみです

でせたようで

す

桜 t

 \bigcirc

花が

つ

お

体 様

R

行

事が行

わ

れる

春

0

心

も

三楽園

デイサービスセンタ

t

楽しませてく

、れる時

期です

ね!

うさあ

音

 \subset

 \bigcirc

 \bigcirc

午

【お花見ドライブ】

3月下旬から4月6日まで春のお花見ドライブに出掛けました。亀川の板山

きつきの里 デイサービスセンター

音音

楽療法っちゃ

 λ

う 0

ジ み

 \exists に直

 \bigcirc 々

に伝授され 太鼓では

た

いと

に咲いても舞ってもきれい



 \bigcirc

たか

ら

三月三十日

勢の り

良 皆

3

が 音

1 与 身 6 え 体 が

きな

動 3

基

づ 感

た を

今月は端午の

節句にちなんでとい

 \emptyset

のぼ

四月十四日

0

怒り

りの絵を描きました。

てとい

のぼり

う

歌にのせて、

それぞ

正くん、通仁くん、思いをはせて、ゆかれのお孫さんたちにれ

か

の太 たち

鼓 を

と 含

 \bigcirc 勢

 \bigcirc

め

2

名

 \bigcirc

演

わ

かば会カラオケボランテ

ィアの皆

とうございまし

を

くださいました。

公四

三日

の芸達者な歌謡ショーあいの少ない中、マジックあいの強り手がお休みといるが来てくださいました。今

あ

岸 t

壁の あり

ま

せ 母

ての武神のサ た。 お 歌 てく 者による8基 中に響きわた わさって威 名の子 ただきま \emptyset

会

0

皆

様

あ

Ō

がとうござ

1

ま

わかば会カラオケボランテ

今回

には浜

つ

 \bigcirc

娘皆三

数さ様日

う事

才のお久が れまし 人身御供となりなりた。昔の民話には た

は特に 毎 け 語 を される太 さ るも す 年 た り L とずめ この 7 養 \bigcirc 心 をひ 鼓 た 演 あ と 1

の 音 奏 7 り 鳴 5

ようす

颯太

通仁くん、

きつ ま

楽しい思い出が出来たので T みしたり。 たり る利 けどおもしろいなぁ 1 の軍 わ 左右 者 利用者の皆様も ま などなどの ゆ 童謡に た様子

腕

げ

たり

足 た ま

踏 た

習

 \bigcirc

成

果

 \bigcirc

だ

思

の巧

奏 ()

活

か

T

お

い日し

頃

り激

だっれ

「単純

な動き

懐

か

<

内田町

龍神太

鼓保

の皆様

あ

り

が

わせ、

を

笑顔 で

感

想も聞 歌が

か

ございました

わ

うか

がえ

となり龍神様

きつきの

里

でちテ

何

遠しく思うよ

う

アの皆

を待

で様

がお香

歌

の会 り 日

来てください

だランテ

イの

まア皆音

くださるボランした。初めて来て

ボ 様

設 0 行 告

各

皆さん した。 とても楽し ☆利用者様からの感想 と楽 かし っく たです 麻生ハ っ 有に r難うございた に行きました。 ハツエ様☆ ま

☆ 四月十二日 四月十二日 み

☆花

三月三十

一日~

桜の季

三節楽が 節

」をご紹介

ここで 三楽 園

 \emptyset

園では

三月

三十

二十一日か 望できる

を

つ今

てきました。



的でした。 とうござい まし あ やみ 会の 皆様どうもあり (下岡)

荘

配され 見 た天候にも恵ま ħ 四月二日~ 気持 たよく

を行う事が出来 を行う事が出来 は豊後高田市田 大堂を通って 木大堂を通って 本大堂を通って お花見ド ラ イ

える道の 桜ら山っ



けっれて けど、登って来たのはは「いつもは下から風車をれ、地元出身の利用者様」度見頃でいい景色じ 激されていました。 は初めて。これを見るだけが ある は 初 様も B わ 甲 め こ ん と喜 だ つ 登 となたりば

四 月 度 お誕 生日会

四月十五日

身 意 や さ日

し 食 「 事 キの彩り を 目 はの ょ

驚かれていてとかえ? が \sqsubseteq つ利と何前

し用 や者い様 ま NV らる た。

デ や 歌 5 見る「3B しれ た感 · 後 2 時 っし る方より ア の元職員 を披露して下 ゃ より誕生日 体操」 まし た。 0 こ。又、に目が 方が が来られるが始まれ さい がとうござい つ まし 釘付 て 下 まり、 生日を迎えら た。 けの方も 「3B体操 初めて ボラン 1

た。 皆 様どうもあり が とうござ (山 田